「ミズオジギソウ」（Neptunia plena Benth）の栽培について

岡 島 一 允
（阪急電鉄宝塚植物園）

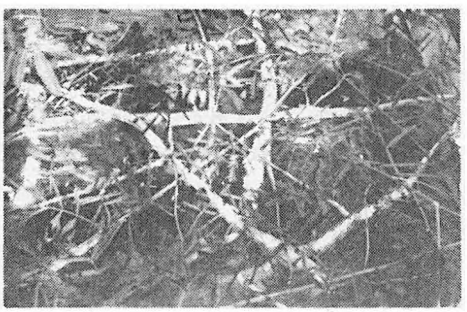
動く植物として知られ，また栽培されている種類としては，オジギソウや食虫植物のハエジゴク等が代表ですが，水草の仲間にも動く植物として，*Neputunia plena* BENTH（ミズオジギソウ・ウキオジギソウ）が知られています。東インド・南米・メキシコを原産とするマメ科の水草で，和名の示す通り一年草として栽培する「オジギソウ（マメ科）」のように敏感には運動をしませんが，やはりふれると葉を閉じます。

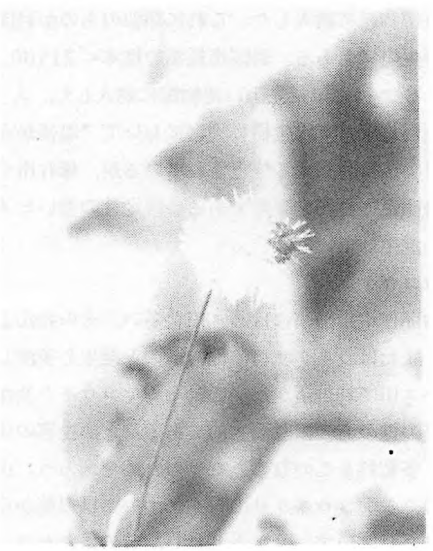
私自身自生地を知りませんが，水草の文献を見ますと，もともと水辺に生育しているもので陸上の植物のように鉢栽培でも充分生長し，その時は普通の植物ですが水辺に出ると俄然本来の姿を発揮します。茎が水面または水中にある時，その周囲が2センチ位の白色のやわらかい海綿状にふくれあがり，水面上では茎を浮き袋にして多数の小枝を出し，水面を覆ってしまう程に成長しすばらしいものです。

陸上でも水上でも生育する植物，さしずめ水陸両用植物といったところか。もうひとつ不思義な性質として知られていることは，よくヒマワリが太陽に向って花を移動させると言われていますが，現実に花壇に植えられているのを見ると太陽に関係なく，思い思いの方向を向いて咲いているのを見るとつい信じがたいと思います。

このミズオジギソウも，このヒマワリのようにその葉が方向性をもっていることが知られ，昼間は常に太陽に向って直角の姿勢をとっており，葉を見ただけで太陽がどこにいるのかすぐわかり，朝は東，夕方は西へ向き，常に体いっぱい太陽を受けている植物で，趣味栽培として，教材用としても興味ある植物です。花は夏の終り頃より，オジギソウそっくり球状の黄色い花を咲かせ，なかなか美しいものです。

栽培法は，熱帯性水草のため冬期をのぞいて野外で，ポリバケツや小型プールを利用し，水深を10センチから30センチ程度にすれば特徴のある海綿状にふくれた茎がどんどん大きくなり，夏中に栽培容器いっぱいに広がります。繁殖は茎を20センチ位に切り，泥の中に挿しておけばすぐに発根を始めほぼ100％の活着です。不耐寒性のため野外での越冬は無理で，私の勤務しています植物園では，温室内の水そうで冬期水温を25度程度で栽培保存しています。





（左）ミズオジギソウの運動
（上）　〃　の花